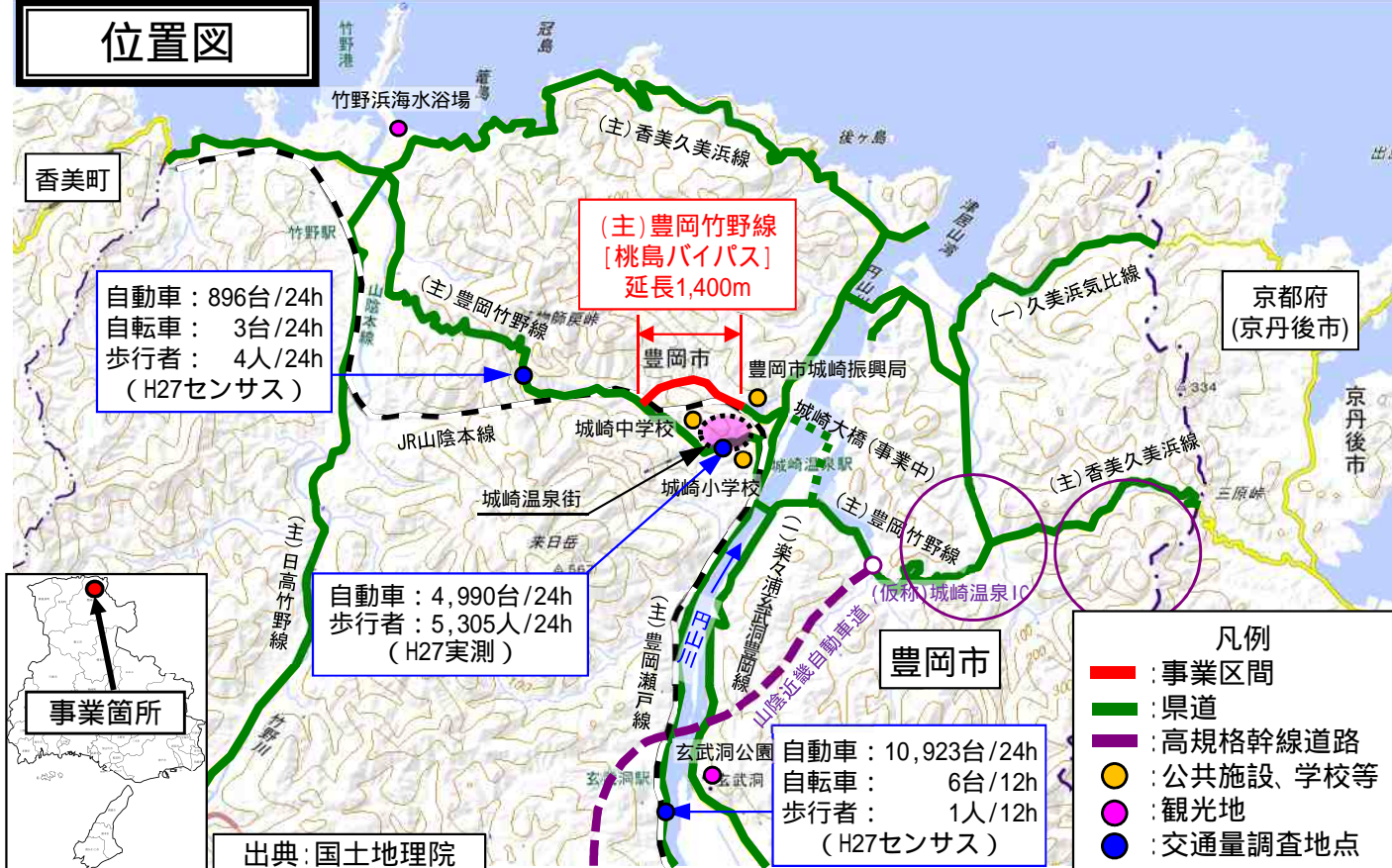


令和4年度 投資事業評価調書（新規）

部課室名	土木部 道路街路課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路街路課長 田中秀典 (県道班長 奥村孝幸)	内線	4362 (4376)	
事業 種目	事業名	事業区間	総事業費	内用地 補償費	着手予定 年度	完了予定 年度
道路	道路改築事業 主要地方道豊岡竹野線 [桃島バイパス]	豊岡市城崎町 桃島～湯島	43億円	1億円	令和5 (2023)年度	令和14 (2032)年度
事業目的			事業内容			
<p>本路線は、豊岡市畑上を起点とし豊岡市竹野町に至る延長約14kmの主要地方道であり、観光地の城崎温泉を經由し、豊岡市北部の東西を連絡する重要な路線である。</p> <p>歩行者・自動車の安全・安心で円滑な交通の確保 幅員狭小な現道のバイパスを整備することにより、温泉街への自動車の流入を抑制し、歩行者・自動車の安全・安心で円滑な交通を確保する。</p> <p>観光産業の支援 城崎温泉関係者や地元住民が、城崎温泉交通環境改善計画を策定し、温泉街の“安全・安心なそぞろ歩き”の実現に取り組んでいる。施策を実現するため、バイパス整備は必要不可欠であり、城崎温泉の更なる魅力向上と地域活性化を図る。</p>			<p>【延長】道路改築 1,400m (トンネル区間 700m)</p> <p>【構造規格】第3種第3級</p> <p>【計画幅員】2車線 片側歩道2.5m 車道6.0m(全幅10.0m)</p> <p>【計画交通量】3,500台/日(R12推計)</p> <p>【現況交通量】 [温泉街(湯の里通り)] 自動車 4,990台/日(H27.8実施) 歩行者 5,305人/日(H27.8実施)</p> <p>【負担割合】 国50% 県50%</p>			
評価視点	評価結果の説明					
(1)必要性	<p>城崎温泉は7つの外湯をめぐる“そぞろ歩き”が魅力となっている。しかし、幅員が狭小であるため、自動車と歩行者が輻輳しており、安全・安心なそぞろ歩きに支障をきたしている。そのためバイパスを整備することにより、温泉街への自動車の流入を抑制し、交通事故の削減を図り、安全・安心で円滑な交通を確保する。</p> <p>地域住民が主体となって、「湯の里通り」の一方通行化や大型車の進入禁止などの交通環境改善計画を策定した。施策を実施するためには、バイパス整備が必要不可欠となる。行政と地域が一体となって、観光地づくりを行い、城崎温泉の更なる魅力向上と地域活性化を図る。</p>					
(2)有効性・効率性 (執行環境状況)	<p>費用便益比 $B/C = 1.7$</p> <p>バイパス整備により、温泉街に流入する自動車交通量を抑制することで、歩行者の安全性が確保される。</p> <p>地域住民等で構成する「城崎大橋架橋・桃島バイパス整備促進期成同盟会」が毎年早期整備の要望書提出や決起大会を開催しており、地域の期待が高い。</p> <p>豊岡側のトンネル坑口付近までは、用地買収が完了している。</p> <p>バイパス整備後の現道の管理引継ぎについて、豊岡市と協議が整っている。</p>					
(3)環境適合性	<p>過去に絶滅危惧種ヒヌマイトトンボ(環境省レッドリスト:IB、兵庫県レッドリスト:A5カ)の生息を確認したことから、環境調査を行い、生息環境に配慮した計画とする。</p> <p>自動車交通量を抑制することで、交通騒音や排気ガスなどに対する沿道環境への負荷が軽減される。</p>					
(4)優先性	<p>山陰近畿自動車道、城崎大橋架替事業と一体的に整備することにより早期の事業効果発現が期待できる。</p> <p>城崎温泉交通環境改善協議会が交通課題の解決に向けた一方通行化や大型車の進入禁止等の交通環境改善策を設定しており、当事業を前提とした効果を期待しているため、事業の優先性は高い。</p>					
【事後評価】 対象・対象外	<p>観光地への入込客数や地域の交流・連携等の効果、事業に対する地域住民の意見等の調査を実施し、事後評価を行う。</p>					

道路改築事業 主要地方道 豊岡竹野線〔桃島バイパス〕

位置図



目的

安全・安心で円滑な交通の確保
観光産業の支援

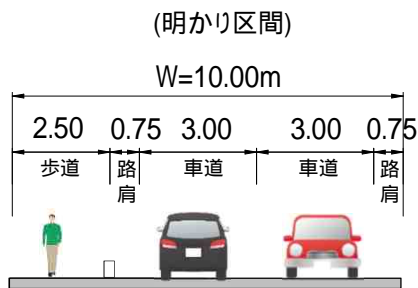
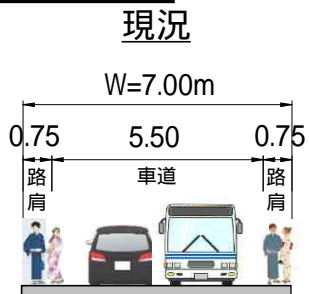
事業概要

事業区間：豊岡市城崎町桃島～湯島
 総事業費：43億円
 内用地補償費：1億円
 事業期間：R5～R14
 事業概要：バイパス(トンネル)
 延長：1,400m(トンネル 700m)
 計画幅員：6.0(10.0)m
 計画交通量：3,500台/日(R12推計)
 費用便益比B/C：1.7

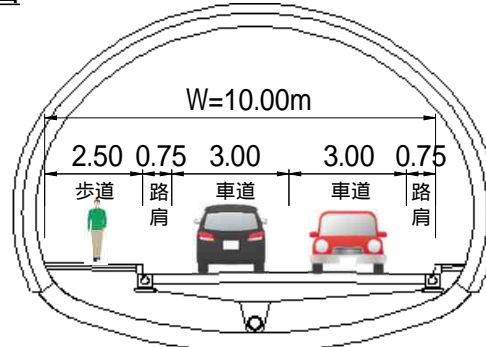
工程表

工種	年度									
	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
調査設計	■									
用地補償		■	■	■						
道路改良			■	■	■	■	■	■	■	■

横断図



計画 (トンネル区間)



事業の必要性・優先性

城崎温泉街では、7つの外湯を巡る“そぞろ歩き”が魅力となっている。しかし、幅員が狭小であるため、自動車と歩行者が輻輳しており、安全・安心なそぞろ歩きに支障をきたしている。そのため、バイパスを整備することにより、温泉街への自動車の流入を抑制し、交通事故の削減を図り、安全・安心で円滑な交通を確保する。

平面図

出典：国土地理院

H27年8月10日実測



現況写真

- 1 観光バス等の大型車の離合が困難



- 2 自動車と歩行者の輻輳による通行阻害



- 3 そぞろ歩きに支障



事業の必要性・優先性

地域住民が主体となって、湯の里通りの一方通行化などの「交通環境改善計画」を策定した。施策を実施するためには、バイパス整備が必要不可欠となる。行政と地域が一体となって、観光地づくりを行い、更なる魅力向上と地域活性化を図る。

- 1 交通環境改善計画

湯の里通り東行き一方通行化
北柳通り・南柳通りでの大型車進入禁止
木屋町通りの安全対策(生活道路化)

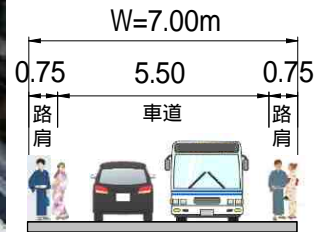
地域



桃島バイパスの整備

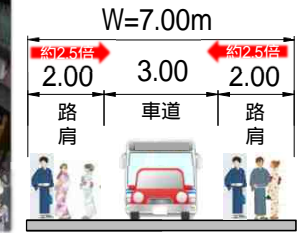
行政

湯の里通り東行き一方通行化



幅員狭小のうえ、東西相互通行のため、歩行者と自動車交通が錯綜

桃島バイパスの整備



一方通行化をすることにより歩行者と自動車交通の共存が可能

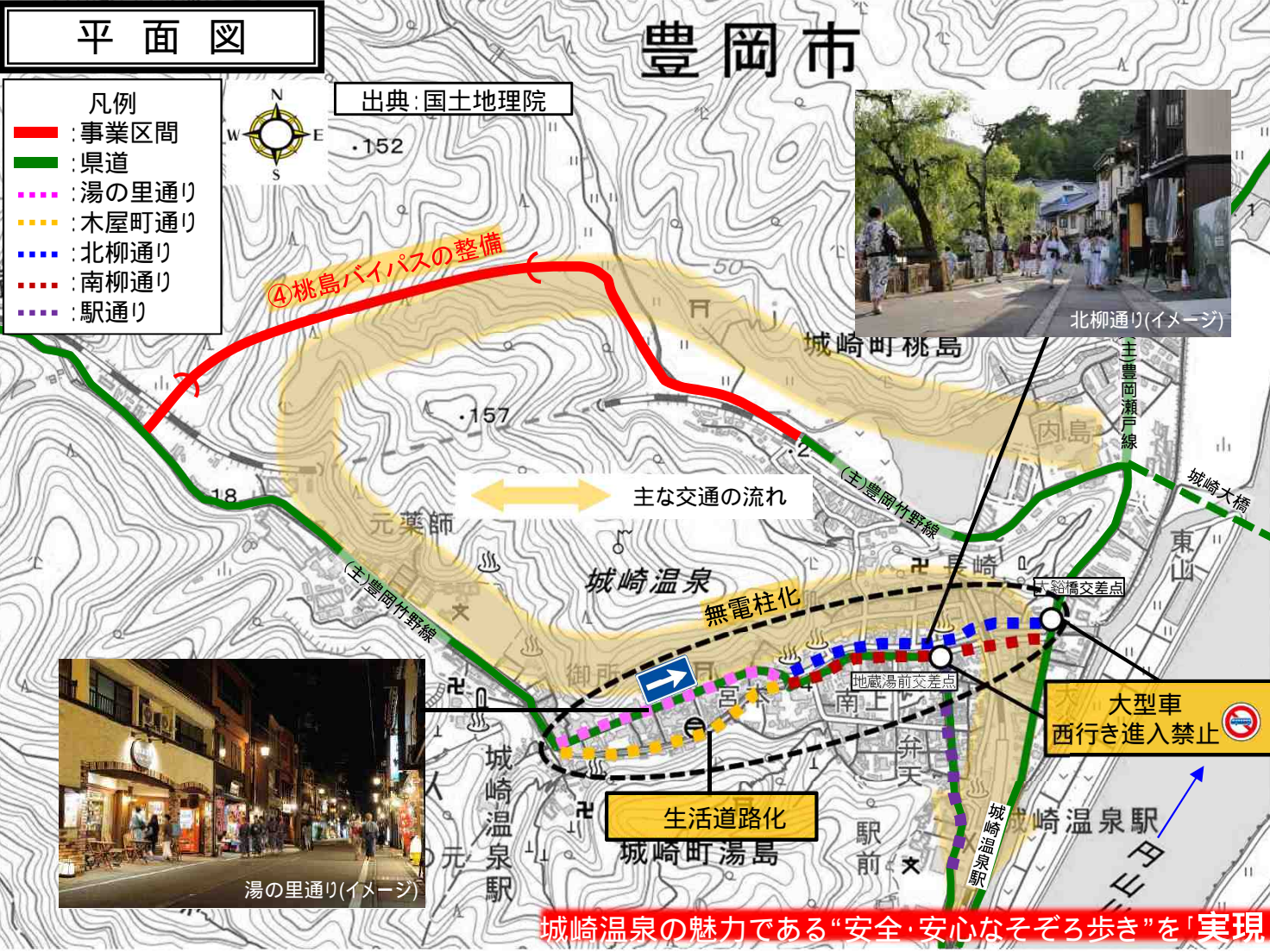
その他の取組み(無電柱化事業)



平面図

- 凡例
- 事業区間
 - 県道
 - 湯の里通り
 - 木屋町通り
 - 北柳通り
 - 南柳通り
 - 駅通り

出典: 国土地理院



城崎温泉の魅力である“安全・安心なそぞろ歩き”を「実現」

事業の有効性・効率性

(1) 費用対効果

便益(B)の項目

評価の視点	効果項目(費用対効果の便益内容)
走行時間短縮便益	目的地までにかかる時間が短くなることによる便益
走行経費減少便益	交通の流れがスムーズになり、燃費などが向上することによる便益
交通事故減少便益	交通事故が減少することによる便益

費用便益比(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)		代表的な効果	C(費用)			B / C
		便益額 (億円)			総費用	事業費	維持管理費	
					(億円)	(億円)	(億円)	
道路	道路改築事業 主要地方道 豊岡竹野線 [桃島バイパス]	走行時間 短縮便益	51.1	時間短縮 4.9分 3.8分 計画交通量 3,500台/日	31.4	30.7	0.7	1.7
		走行経費 減少便益	0.7					
		交通事故 減少便益	0.2					
		計	52.0					

(2) 費用対効果に含まれない効果

評価の視点		効果項目	該当する事業内容等	
安全・安心の確保	災害時	緊急医療・緊急物資の円滑な輸送の確保 (緊急輸送道路の整備、防災拠点・災害拠点病院へのアクセス道路)		災害時の緊急車両等の円滑な走行を確保
		救助・救援活動の支援 (災害時の通行不能や孤立集落の解消)		(主)豊岡瀬戸線の代替機能の確保
		減災対策への取り組み (二選定道路、避難路・避難場所としての機能、延焼防止機能の確保)	-	-
	平時	救急医療体制の支援	-	-
		交通安全対策		温泉街への交通量削減による歩行者の安全確保
地域の活性化		地域間交流の促進		京丹後市等の他府県からのアクセス性向上による交流の促進
		中心市街地の活性化		旧城崎町中心市街地の活性化
		地域産業の活性化		-
		観光支援		アクセス性向上による観光振興
		地域プロジェクト等支援		温泉街の安全・安心な「そぞろ歩き」の実現
円滑な交通体系の確保		公共交通機関利用の促進 交通結節機能の向上	-	-
地域の環境改善		沿道環境の改善 景観形成		通過交通の転換による騒音、排気ガス等の沿道環境への負担軽減

(3) 地域からの要望状況等

要望状況等	地元住民で構成する「城崎大橋架橋・桃島バイパス整備促進期成同盟会」による早期実現促進大会がH26年度から開催されており、県に早期着手の要望書が提出されている。
-------	---